



産業経済委員会

■**執行部** 県の貸付金を受けて、公社は公庫等からの借入金のか。

■**土森委員** 現在の280億円の負債総額は今後ふえないか。

■**執行部** 既往債務である公庫、市中銀行等への償還については、県から貸付金を出さざるを得ませんが、既往債務以外の事業活動収支については、利用間伐などにより、第2期経営改善実行計画の最終年度である平成24年度には黒字化を目指しています。

■**執行部** 検討会の報告書の中では森林整備の補助事業に関する提言などがされていますが、予算を伴うため、まだ明確になっておりません。引き続き国へ働きかけ、具体的な支援策を引き出していくことが今後の課題と考えています。

■**執行部** 国の第一次補正予算の執行見直しにより採択と



土森委員

■**執行部** 国の見直しがあり、県単独で助成することにし、繰り越しはできないということで、再度希望を募っています。12月末にはなんとか交付決定をしたいという意気込みです。

■**執行部** 既往債務である公庫、市中銀行等への償還については、県から貸付金を出さざるを得ませんが、既往債務以外の事業活動収支については、利用間伐などにより、第2期経営改善実行計画の最終年度である平成24年度には黒字化を目指しています。

■**執行部** 既往債務である公庫、市中銀行等への償還については、県から貸付金を出さざるを得ませんが、既往債務以外の事業活動収支については、利用間伐などにより、第2期経営改善実行計画の最終年度である平成24年度には黒字化を目指しています。

■**執行部** 検討会の報告書の中では森林整備の補助事業に関する提言などがされていますが、予算を伴うため、まだ明確になっておりません。引き続き国へ働きかけ、具体的な支援策を引き出していくことが今後の課題と考えています。

■**執行部** 国の第一次補正予算の執行見直しにより採択と

■**執行部** 国の見直しがあり、県単独で助成することにし、繰り越しはできないということで、再度希望を募っています。12月末にはなんとか交付決定をしたいという意気込みです。



溝淵委員長

を返済します。県の貸付金と公庫等からの借入金の構成割合は変わりますが、負債総額はふえないと考えています。

■**溝淵委員長** 検討会において今回の特別交付税の拡充などの成果が出てきたが、今後国

■**委員** 離職者等の状況についてどのような見直しを持っていくのか。

■**執行部** ふるさと雇用再生特別基金事業については、初期の人員費の負担を軽減し、事業の継続につながることで、将来的に雇用も相当程度継続していくものと考えています。



武石委員

■**武石委員** この事業は、1カ所当たり200万円ぐらいという割と小規模な事業であるが、かゆいところに手が届くというところで非常に評価する。もう12月で、補正予算が認められて発注に向かうが、200万円以内だから繰り越しということもなれないと思う。年度内に仕上げられる見直しはあるのか。



文化厚生委員会

■**樋口委員** 59億円の事業の予防され、患者の負担を軽減することができません。また、空床情報の共有により、病院間での患者紹介や転院等が促進され治療の継続がスムーズに行われるとともに、平均在院日数の短縮のメリットも考えられます。



樋口委員

■**執行部** 法人化の効果を出せるだけ早く発注させることが望ましく、このため共学化と校名変更の時期が最も適しているのか。

■**委員** 大学が青写真とする法人化期限と県の意向との間にズレがあるが、大学側の協議結果を尊重する姿勢が必要ではないか。

■**執行部** 法人化の効果を出せるだけ早く発注させることが望ましく、このため共学化と校名変更の時期が最も適しているのか。



山本委員

■**執行部** 現在予定している基金の内訳としては、県の直轄事業に15億円、新安芸病院内の整備に23億円、高知大学医学部の研修施設に10億円、医師確保事業に10億円、安芸医療圏の地域医療再生支援に1億円を考えています。

■**執行部** 基金事業終了後の高知医療再生機構の事業費は、新安芸病院の整備に充当した基金の返済額に相当する約1億円をベースに、自治体や関係機関からの支援等も考えています。

■**執行部** 大学が青写真とする法人化期限と県の意向との間にズレがあるが、大学側の協議結果を尊重する姿勢が必要ではないか。

■**執行部** 法人化の効果を出せるだけ早く発注させることが望ましく、このため共学化と校名変更の時期が最も適しているのか。

■**執行部** 基金事業終了後の高知医療再生機構の事業費は、新安芸病院の整備に充当した基金の返済額に相当する約1億円をベースに、自治体や関係機関からの支援等も考えています。

■**山本委員** この事業を実施することで具体的にどのようなメリットがあるのか。

■**執行部** 治療情報や投薬情報を瞬時に確認することができ、投薬や検査の重複が

■**執行部** 現在予定している基金の内訳としては、県の直轄事業に15億円、新安芸病院内の整備に23億円、高知大学医学部の研修施設に10億円、医師確保事業に10億円、安芸医療圏の地域医療再生支援に1億円を考えています。

■**山本委員** 多くの施設が応募してくると思われるので、高知市中心部に偏らないよう調整してもらいたい。

■**樋口委員** 養成機関3校は、いずれも高知市内にあり、遠隔地の施設が応募しやすいような配慮が必要ではないか。



西岡委員

■**執行部** 県内一円で募集を行い、公平に施設を選んでいきます。雇用先の施設と養成機関が離れているため、施設で毎日勤務ができない方は、養成機関の長期休暇時の勤務だけでも構わないことを、施設等に周知していきたいと考えています。

■**山本委員** 合意を受けて、今後どういった作業をしていくのか。

■**執行部** 今までSPCが一括発注していた清掃・給食・維持管理などの業務を、今後、企業が直接業者に発注する形になります。委託業務の範囲などについて企業間で検討し、業務の移行を順次進めていきます。尚、2月定例会には一定の報告ができるよう準備を進めていきます。